

# プリモルスカ（アドリア海沿岸部：Koper, Izola, Piran, Portorož）

平成28年11月

在スロベニア日本国大使館

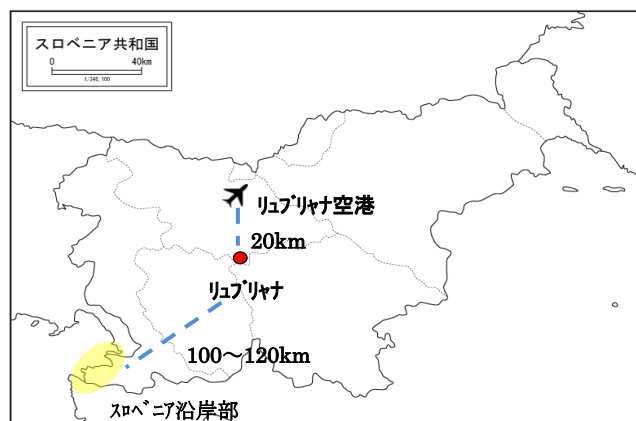
## ～アドリア海沿岸部の見どころ～

- スロベニア最大規模の港湾施設とワイナリーを有する「コペル」
- 静かな旧市街とハーバーなどリゾート地の活気がある街「イゾラ」
- ヴェネチア共和国の面影が残る街「ピラン」
- スロベニア有数のリゾート・国際会議地「ポルトロージュ」



ピラン

© Copyright 2016 - SEE btm



## アドリア海沿岸地域

●歴史的に、農耕に従事していたスロベニア民族は内陸部に居住し、一方でアドリア海沿岸地域は長くベネチア共和国の支配下にあり、第一次大戦後はイタリアに支配されていた。こうした経緯から、アドリア海沿岸地域ではイタリア文化の影響が色濃く残されており、スロベニア文化との融合が興味深い。現在でも公用語はスロベニア語とイタリア語であり、多くの市民はバイリンガルである。

●コペル及びイゾラは、元来本土とは切り離された島であり、そこへ異民族の侵入から防御するための街が形成されていたが、19世紀に埋め立てられ現在の市街の形となった。そのため、街の中心部が小高い丘になっており、そこに広場や中心となる教会、かつての行政機関の建築物などが集中している。これら都市はベネチアの雰囲気や街並みを彷彿とさせ、特にピランは音楽家のタルティーニとの接点もあり、ベネチア共和国構成都市としての趣きを今に伝える。

●気候は内陸部より温暖で、降水量も少ない。このような気候を利用して良質なワインの生産（主に赤ワイン）や、果樹栽培（珍しい例としては柿）の栽培も盛んである。

## 1. コペル (Koper)

### (1) アクセス

●首都リュブリャナから104km:

車で約1時間15分

バス(リュブリャナ駅発)で約1時間40分～2時間、1日8便運行

●リュブリャナ(ヨジエ・プチニク)空港から

127km: 車で約1時間25分

### (2) 統計

・人口: 51,053名(2015年12月現在)

・主要産業: 貿易、輸送、自動車産業、漁業、ワイン製造、果樹栽培

- ・平均総月収:1,587ユーロ  
(約20万円、2014年)
- (全国平均:1,540ユーロ)
- ・失業率:11.7%(全国平均は13.1%)

### (3)概要

●古代ローマ時代、コペルは「ヤギの島(Insula Caprea)」と呼ばれる島だった。13世紀以降はベネチア共和国の支配下に置かれ、中世になるとイストラ半島で初めて自治権を得た。当時のコペルの権力は非常に強大なもので、この時代に5人のコペル市長(商艦隊長)がベネチア統領(Doge「ドージェ」)の座に着いたこともその表れである。

●19世紀には南部を中心に島の周辺が埋め立てられ、現在見られる本土と陸続きの形になった。第二次大戦後、コペルの近代化は急速に進み、大規模な住宅地、ショッピングセンターや工業地帯の他、国内で唯一、大型貨物船・旅客船を受け入れる港が建設された。この港湾に立脚する「コペル港湾会社」は、スロベニアの戦略的な国営会社であり、対日関連ミッションを継続派遣している。



© EJA

### (4)見どころ



#### ①執政官の宮殿(Pretorska Palača)

市の中心、チトー広場に建てられたベネチア共和国時代の執政官の宮殿。15世紀の建築当時は、ゴシック様式とルネッサンス様式が融合したデザインだったが、17世紀の改築時にバロック様式の特徴も付け加えられた。現在は市庁舎の一部として利用されている。

#### ②聖ナザリウス教会(Cerkev sv. Nazarija)

12世紀に建築された教会で、基層の部分はゴシック様式で、上層部分はルネッサンス様式の特徴を持つ。1480年には、教会に隣接して、高さ約54mの鐘楼が建てられた。内部には、18世紀の建築家ジョルジョ・マツサーリによる装飾が見られる。



鐘楼と執政官の宮殿

#### (5)ワインセラー

##### ●Santomas(コペル市郊外の丘の上)

住所:Šmarje 10, 6274 Šmarje

電話:+386 (0) 5 639 26 51

Email: info@santomas.si

HP: <http://www.santomas.si/en/>

##### ●VINAKOPER(市南東部)

住所:Šmarska cesta 1, 6000 Koper

電話:+386 (0) 5 663 01 00

Email: vinakoper@vinakoper.si

HP: <http://www.vinakoper.si/en>

## 2. イゾラ(Izola)

### (1)アクセス

- 首都リュブリャナから110km:  
車で約1時間15分  
バス(リュブリャナ駅発)で約2時間30分  
1日2便運行
- リュブリャナ(ヨジエ・プチニク)空港から  
132km:車で約1時間25分

### (2)統計

- ・人口:15,881名(2015年12月現在)
- ・主要産業:観光業、食品加工産業、船舶、漁業  
果樹栽培
- ・平均総月収:1,488ユーロ  
(約19万円、2014年)  
(全国平均:1,540ユーロ)
- ・失業率:12.6%(全国平均は13.1%)

### (3)概要

- イゾラは「島」を表すイタリア語で、コペルと同様に、かつてはイストラ半島の沖に浮かぶ島であった。その歴史は古く、ローマ時代には「ハリアエトゥム(Haliaetum)」の名で知られていた。中世にベネチア共和国の支配下で重要な交易都市として発展したが、16世紀以降、ベネチアに代わってオーストリア・ハンガリー帝国の外港のトリエステが台頭してくると、イゾラは衰退の一途を辿った。
- その後、19世紀に行われた埋め立て工事により大陸と繋がった。旧市街は中世の雰囲気を残しているが、現在では夏場のリゾート地としても賑わっている。
- 毎年9月には、在スロベニア外交団有志が参加するレガッタ大会(外務大臣後援)が開催される。



© 2016 Slovenian Tourist Board

## (4)見どころ



### 聖マウルス教会 (Cerkev sv. Mavra)

- イゾラのシンボルマークとなる教会。14世紀頃建設されたとされているが、幾度も増築や修復を繰り返し、今日見られる姿になったのは20世紀初頭とだという。建物はベネチア共和国の影響が感じられ、塔もベネチアにあるサン・マルコ大聖堂の鐘楼と酷似している。
- 港に近いイタリア人広場・マウルス教会前広場には、かつてイタリア人が居住していたが、見事に修復、改築され趣きのある雰囲気醸し出している。この広場から放射線状に魅力的な街並みが広がっている。



Copyright © Slovenske Novice 2016

## 3. ピラン(Piran)

### (1)アクセス

- 首都リュブリャナから120km:  
車で約1時間20分  
バス(リュブリャナ駅発)で約2時間30分～3時間 1日4便運行
- リュブリャナ(ヨジエ・プチニク)空港から  
141km:車で約1時間30分

## (2)統計

- ・人口:3,975名(2015年12月現在)
- ・主要産業:観光業、食品加工産業、小企業
- ・平均総月収:1,399ユーロ  
(約18万円、2014年)
- (全国平均:1,540ユーロ)
- ・失業率:13.8%(全国平均は13.1%)

## (3)概要

- ピランは、トリエステ湾とピラン湾に挟まれた細い半島に位置する小さな港町で、スロベニアで最も美しい街の一つと言われている。
- 他の沿岸地域と同様に、13～18世紀にかけてベネチア共和国の支配下に置かれた。街並とユリアン・アルプスが見事に一望できる小高い丘の上には、当時築かれた強固な城壁の一部が残っており、現在は展望台として利用されている。街には、広場を中心に17世紀頃のゴシックやバロック様式の建築が残されており、街全体が遺産として保護されている。



© Wikipedia

## (4)見どころ



## ①タルティーニエフ広場(Tartinijev trg)

ピランの街の中心にある広場。元は旧港だったが、19世紀末に埋め立てられ、現在のような広場が形成された。周囲には中世に建てられた建物が佇み、当時の面影をしている。広場に建つ銅像は、この広場の名前にもなっている、ピランが生んだ作曲家・バイオリストのジュゼッペ・タルティーニ(Giuseppe Tartini, 1692～1770年)である。彼の代表作には「悪魔のトリル(Devil's Trill sonata)」がある。



copyright© 1992-2015

## ②聖ユリア教会 (Cerkev sv. Jurija)

1344年に街を見下ろす小高い丘の上に建てられた教会。教会には、4つの鐘を持つ「聖ユリアの鐘楼(Zvonik crkve sv. Jurija)」が隣接している。1637年に、バロックやルネッサンス様式を取り入れた現在の外観に改装された。



© 2005 Patrick Giraud aka Calipszdruženje

## 4. ポルトロージュ(Portorož)

### (1)アクセス

- 首都リュブリャナから118km:  
車で約1時間20分  
バス(リュブリャナ駅発)で約2時間30分～3時間 1日4便運行

●リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から  
139km:車で約1時間30分

## (2)統計

- ・人口:2,961名(2015年12月現在)
- ・主要産業:観光業、食品加工産業、小企業
- ・平均総月収:1,437ユーロ  
(約18.7万円、2014年)
- (全国平均:1,540ユーロ)
- ・失業率:12.2%(全国平均は13.1%)

## (3)概要

●19世紀後半から観光で栄えている街。  
現在は高級ホテル、高級ブティック、カジノなどが立ち並ぶ夏のリゾート地として、スロベニア国内だけでなく近隣のクロアチアやイタリアからも観光客が訪れる他、各種国際会議の開催地となっている。

## (4)見どころ



### セチョヴィリエ塩田 (Sečoveljske soline)

ポルトロージュの南、クロアチア国境近くに広がる、650ヘクタールの広さを誇る天然の塩田。今でも昔ながらの製塩の製法が受け継がれる唯一の塩田である。また近くの湿地帯は野鳥の飛来地としても知られ、自然公園に指定されている。この塩田の塩を加味したチョコレートは、代表的なお土産品の一つ。

